

中国国民経済の 社会主義的改造

薛 暮 橋
蘇 子 星
林 力 共 著

北 京 外 文 出 版 社

中国国民経済の
社会主義的改造

薛 暮 橋
蘇 子 星
林 力
共 著

北京 外文出版社

中国国民経済の社会主義的改造

1960年 初版発行

定 価 200 円

1964年第二刷(改訂版)発行

著 者 薛暮橋 蘇 星 林子力

出 版 者 外 文 出 版 社
(北京阜成門外百万莊)

発 行 者 中 国 国 際 書 店
(北京 P.O.Box 399)

編号: (日) 4050-77

00140

4-J-391P

目次

序論	一
第一章 社会主義的国营經濟の發展	一八
第一節 社会主義的国营經濟の誕生	一八
第二節 国营經濟の指導的地位の確立	三七
第三節 社会主義的国营經濟の發展	六八
第二章 農民と手工業者の单独經營經濟の社会主義的改造	九一
第一節 土地改革後の農村の經濟狀況と中国共産党の農業協同化政策	九一
第二節 農業協同化の發展過程	一一五
第三節 单独經營の手工業と零細商業の社会主義的改造	一四四

第三章	資本主義經濟の社会主義的改造……………	一七三
第一節	中国の資本主義經濟の特徴と資本主義的工商業の 社会主義的改造についての党の政策……………	一七三
第二節	初級形態の国家資本主義經濟……………	一九四
第三節	高級形態の国家資本主義經濟……………	二二七
第四節	ブルジョア分子の改造……………	二三七
結語……………		二五一
あとがき……………		二七一

序論

一九四九年十月一日、世界総人口の四分の一をしめる東方の大地に、中華人民共和国が誕生した。これは偉大な十月社会主義革命後における世界史上のいまひとつの大きな転換点であった。

中国革命の勝利は、東方における帝国主義の戦線に大きな突破口をきりひらき、これによつて帝国主義の植民地主義制度が致命的な打撃をこうむった。それは、いちだんと世界の様相をあらため、大いに社会主義陣営の力をつよめるとともに、帝国主義陣営の力をよわめた。

中華人民共和国の成立は、中国のブルジョア民主主義革命の段階が基本的に終わりをづけ、プロレタリア社会主義革命の段階がはじまったことをしめしている。これをさかいめに、半植民地的・半封建的な旧い時代は二度とかえらぬものとなり、中国の勤労者は社会主義革命と社会主義建設の偉大な事業にのりだした。

ここ百年らい、旧中国は半植民地的・半封建的な社会であった。帝国主義は長期にわたつて中国のおもな経済命脈をおさえ、中国を原料略奪、商品ダンピング、資本輸出の市場としていた。

抗日戦争まえまでは、帝国主義は中国の出炭量の五六%、銑鉄生産量の八〇%、発電量の七六%、棉布生産量の六四%、船舶輸送量（トン数）の六三%（そのうち遠洋航路が八三・八%をしめる）と公共事業のほとんどを独占するとともに、中国の金融、保険、外国貿易をその手にぎつていた。帝国主義はさまざまな特権を利用して、おどろくべき多額の利潤をかすめとつていた。第二次世界大戦前には、中国はイギリス、日本、アメリカ、さらにはドイツ、フランスなどの帝国主義諸国が勢力範囲を奪いあつて、尖鋭な闘争をすすめていた戦場であつた。第二次世界大戦中には、日本帝国主義が中国にたいしておおびらに武力侵略をおこない、イギリス、アメリカなどを追い出して中国の大部分の領土を占領し、これらの領土をその植民地に変えた。抗日戦争の勝利ののちには、アメリカ帝国主義が日本帝国主義にとってかわつて、おもな侵略勢力となつた。

封建的な経済構造は、外国資本主義の侵入と国内資本主義の抬頭ののちには、いくらか破壊された。だが、毛沢東同志がのべているように、「封建的搾取制度の基礎——地主階級の農民にたいする搾取は、依然としてのこされているばかりでなく、買弁資本や高利貸資本の搾取と一つにむすびついて、中国の社会経済生活のなかで、あきらかに優勢を占めている」①中国では農村人口の一〇%にもみたない地主と富農が全耕地の七〇%以上を所有していたのにたいし、人口の

九〇%以上をしめる中農、貧農、雇農は全耕地の三〇%にもみない土地を所有していたにすぎなかった。農民が地主の土地を借りるには収穫の半分以上を小作料として地主におさめねばならず、年がら年じゅう働いても衣食にこと欠くありさまであった。

旧中国の資本主義経済は、二つの異なる部分からなっていた。一つは民族資本主義で、おもに中小資本主義的企業からなっており、帝国主義、封建主義とのあいだに切っても切れないつながりをもつてはいたが、帝国主義からは排斥、打撃され、封建主義からも束縛をうけていたので、帝国主義、封建主義とのあいだに矛盾をもっていた。この部分の経済を代表する民族ブルジョアジーは政治的にも経済的にもわりに弱かった。もう一つは、買弁的・封建的国家独占資本主義（すなわち官僚資本主義）である。この部分の資本主義経済は蔣、宋、孔、陳の四大家族に代表されるもので、おもに国民党反動派が権力をにぎっていた二十数年のあいだ、反革命権力を直接その道具として、全国人民にたいして残酷な搾取と略奪をすすめ、これによって発展してきたものである。かれらはもっぱら外国帝国主義にたよるとともに、国内の封建主義ともむすびついていた。抗日戦争の勝利ののちには、国民党反動政府が中国にある日本、ドイツ、イタリアなど帝国主義諸国の財産を接収したため、この部分の資本主義経済は最高の段階にまで発展し、全国の経済命脈を独占するにいたった。この国家独占資本主義は、労働者と農民を圧迫し搾取するだけ

でなく、また民族工業を圧殺し、民族ブルジョアジーの利益をそこない、帝国主義、封建主義と同様、社会の生産力の発展にとって大きな障害となっていた。したがって、毛沢東同志はつぎのように指摘している。「新民主主義革命の任務は、中国における帝国主義の特権を廃止するほかに、国内で、地主階級と官僚ブルジョアジー（大ブルジョアジー）の搾取と圧迫を一掃し、買弁的・封建的な生産関係をあらため、束縛されている生産力を解放することにある」②と。

中国における帝国主義の特権を廃止し、買弁的・封建的生産関係をなくすということは、その性質からいえばブルジョア民主主義革命であって、帝国主義反対の民族革命と封建的支配反対の民主主義革命とが結びついたものである。だが、中国の民主主義革命は、偉大な十月社会主義革命の勝利ののち、全世界がすでにプロレタリア革命の時代にはいつて、社会主義制度が日まじに繁栄し、資本主義制度が落日の運命にある、こうした歴史的條件のもとでおこったものであり、労働者階級の指導する労働同盟が、すでにこの革命の基本的な力になっていたのであった。したがって、中国の民主主義革命は旧い型の一般的なブルジョア民主主義革命ではなく、新しい型の民主主義革命、すなわちプロレタリアートの指導する人民民主主義革命であって、すでに世界プロレタリア革命の一環となっていた。この革命の最終的結果は、資本主義をさけ、社会主義を実現することになるのである。

中国の民主主義革命の時期に、毛沢東同志はつぎのような思想をくりかえし明らかにした。

「中国共産党の指導する中国革命運動全体は民主主義革命と社会主義革命の二つの段階をふくむ革命運動全体であり、これは性質をことにする二つの革命の過程であって、まへの革命の過程を達成してこそはじめて、あとの革命の過程を達成することができるのである。民主主義革命は社会主義革命の必要な準備であり、社会主義革命は民主主義革命の必然的な発展方向である。そして、すべての共産主義者の最終目的は、社会主義社会と共産主義社会の最後的な完成のために努力することである」③と。中国革命の性質と前途にたいする毛沢東同志の分析は、連続革命論と革命発展段階論の統一についてのマルクス・レーニン主義の原理に立つものである。これは、革命を民主主義革命の段階で停顿させようとする右翼降伏主義の見方に反対するとともに、民主主義革命の段階をとびこえようとする「左」翼冒險主義の見方にも反対している。毛沢東同志は、マルクス・レーニン主義の革命発展段階論を堅持し、民主主義革命と社会主義革命というこの二つの段階の革命の任務をはっきり区別する一方、他方ではまたマルクス・レーニン主義の連続革命論を堅持し、この二つの革命を密接にむすびつけ、民主主義革命の段階でできるだけ社会主義革命のための条件をつくりだし、そして民主主義革命が全国で勝利をおさめた暁には、停顿することなくただちに社会主義革命の闘争をすすめることを主張した。

プロレタリアートがその革命的政党——共産党を通じて、民主主義革命の指導権をしっかりと握ること、これは民主主義革命の徹底的な勝利と、民主主義革命を勝利のうちに社会主義革命へと転換させてゆくことを保証するためのかなめである。民族ブルジョアジーとその政党は、かれら自身の軟弱性によつて、中国のブルジョア民主主義革命を指導して勝利へみちびくことができない。それゆえ、この革命の指導任務は、プロレタリアートとその政党——中国共産党によつて担当されるよりほかはない。

中国の民主主義革命の敵は、帝国主義、封建主義、官僚資本主義である。かれらはひじょうに強大だったが、しかし、中国人民のなかにつみたくわえられた革命の力はさらに強大であつた。中国の農民は総人口の圧倒的多数をしめており、かれらは革命への強い要求をもっていた。中国の労働者階級は共産党の指導のもとに、広はんな農民と強固な労農同盟をうちたて、かつこの同盟を基礎にして、全国の各民族および各革命階層の人民大衆を団結させ、二十八年間にわたる英雄的な闘争を経て、ついに強大な敵にうち勝ち、帝国主義、封建主義、官僚資本主義の反動支配をくつがえし、中華人民共和国をうちたてた。

中華人民共和国の成立によつて、中国は資本主義から共産主義への過渡期にはいった。過渡期はじまつたそのときからすでに、労働者階級を指導者とし、労農同盟を基礎とする人民民主主

義独裁、すなわちプロレタリアト独裁がうちたてられたこと、中国における帝国主義のすべての特権が廃止されたこと、官僚資本が没収され、強大な社会主義的国营経済がうちたてられたこと、土地改革を通じて地主階級による封建的土地所有制が農民による土地所有制にあらためられたこと、こうしたすべてのことによつて、中国の社会の経済構造には根本的な変化が生まれた。

過渡期の初期における基本的な経済構成要素は、社会主義的国营経済、農民と手工業者の単独経営経済、資本主義経済の三種類であつた。この三種類の基本的な経済構成要素と関連して、労働者階級、農民と都市の小ブルジョアジー、ブルジョアジーという三つの基本的な階級が存在していた。三種類の基本的な経済構成要素のほかに、半社会主義的な性質をもつ協同組合経済（そのころ、社会主義的な性質をもつ協同組合はまだひじょうにすくなかつた）と国家資本主義経済があつた。この二種類の経済は、いずれも過渡的性質のものである。ここにのべた五種類の経済構成要素のうち、指導的地位をしめていたのは社会主義的国营経済である。

過渡期の主な矛盾は社会主義の道と資本主義の道とのあいだの矛盾、いいかえれば、プロレタリアートとブルジョアジーとのあいだの「誰が誰に勝つか」の闘争である。ロシア十月社会主義革命の初期に、レーニンはつぎのようにのべている。「資本主義と共産主義のあいだに一定の過渡期があることは、理論上疑いをいれない。この過渡期は、この二つの社会経済制度の特徴また

は特性を一つに結合したものとならざるをえない。この過渡期は、死滅しつつある資本主義と生まれでようとする共産主義との闘争、いいかえれば、打ちやぶられたがまだ絶滅されてはいない資本主義と、生まれはしたがまだまったく弱い共産主義との闘争の時期とならざるをえない④と。レーニンのこれらの言葉は、ロシアにあてはまるだけでなく、中国その他、資本主義から共産主義へ移行するすべての国にもあてはまるものである。

過渡期の初期におけるおもな任務は、社会主義革命と社会主義建設を遂行することである。

社会主義諸国の経験によると、社会主義革命と社会主義建設をすすめる過程で、歴史的に形づくられた各民族の特徴と伝統には大きな違いがあるにもかかわらず、総じてそれぞれの民族は、社会主義の道をすすむすべての国に適用される共通の法則に従わなければならない。一九五七年十一月にモスクワでひらかれた社会主義諸国の共産党・労働者党代表者会議の宣言では、こうした共通の法則をつぎのようにはっきりと指摘している。

マルクス・レーニン主義的政党を中核とする労働者階級が勤労大衆を指導してあれこれの形態のプロレタリア革命を遂行し、あれこれの形態のプロレタリアート独裁をうちたてること。

労働者階級と農民の基本的な大衆その他の階層の勤労者との同盟をうちたてること。

基本的生産手段の資本主義的所有制をなくし、基本的生産手段の共有制をうちたてること。

農業の社会主義的改造を段取りをおって実現すること。

国民経済を計画的に発展させて、社会主義と共産主義を建設し、勤労者の生活水準の向上をはかること。

イデオロギーと文化の分野における社会主義革命を遂行し、労働者階級、勤労者および社会主義の事業に忠実な知識人の強大な隊列をつくりあげること。

民族的抑圧をなくし、民族間の平等と兄弟的な友宜をきずきあげること。

社会主義の成果を守り、それが内外の敵から侵されないようにすること。

プロレタリア国際主義を実行し、各国の労働者階級と一致団結すること。

これらの普遍的な真理は各国のプロレタリアートのまえに、社会主義へすすむひろびろとした道をさししめしている。

各国の社会主義革命と社会主義建設が共通の法則をもつことを認めるからといって、各国の共産党、労働者党が自国の具体的な歴史的條件にもとづかないで、他国の共産党の政策と戦術を機械的にとりいれてもよいというわけでは決していない。レーニンはかつてこういつている。「すべての民族は社会主義へ行きつくであろう。それは避けられない。しかし、すべての民族がまったく同一のやり方で行きつくとはかぎらない。それぞれの民族は、民主主義のあれこれの形態に、

またプロレタリアートの独裁のあれこれの変種に、また社会生活のいろいろな側面の社会主義的改造のあれこれの速度に、独特なものをもたらすであらう」⑤と。『モスクワ宣言』はこう指摘している。「社会主義諸国の共産党、労働者党は、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理をそれぞれの国の革命および建設の具体的な実践と結びつけるという原則を堅持し、それぞれの国の具体的条件にしたがって、社会主義革命と社会主義建設の共通の法則を創造的に運用し、互いに経験を交流し、学びあわなければならない」と。これはすなわち、一方では、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を堅持しなければならないということである。そうしなければ、右翼日和見主義または修正主義の誤りをおかすことになる。またいま一方では、実際から出発し、大衆と緊密にむすびつき、たえず大衆闘争の経験を総括することによって、独自で自国の状況に合致した政策と戦術を制定し、実行しなければならないということである。もしもそうしないで、他国の共産党の政策と戦術を機械的にとり入れ、盲目的に他人の指揮棒についてまわり、分析もせず、他国の共産党の綱領と決議を自己の路線としてとりいれるのであれば、それは教条主義の誤りをおかすことになる。

中国共産党は全世界のマルクス・レーニン主義的政党と同様、つねに十月革命の道を燈台とみなしている。社会主義革命と社会主義建設の共通の法則は、過去、現在、将来を通じてつねにわ

われわれの行動の指針となっている。毛沢東同志はこうのべている。「われわれ中国人民は十月社会主義革命の道にしたがったからこそ、こんにちの勝利と成果をおさめたのである。中国人民は一貫して、中国革命を偉大な十月社会主義革命の継続であるとみなしており、またそれをこのうえない榮譽としている」⑥と。

社会主義革命と社会主義建設の共通の法則を運用するには、正しい方針がなければならぬ。この方針というのは、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国革命の具体的な実践と結びつけることである。わが党の四十余年にわたる経験は、われわれがこの方針にしたがいさえすれば、革命事業はかならず勝利と発展へすすむこと、これに反して、もしもわれわれがこの方針からはずれば、革命は大なり小なり失敗または挫折をこうむることを立証している。この点では、毛沢東同志は、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国革命の具体的な実践とむすびつけ、厳粛な原則的精神を潑刺とした独創的精神とむすびつけたわが党のもっとも卓越した代表である。

政治の面から見れば、中国の権力は労働者階級の指導する労農同盟を基礎とした人民民主主義独裁である。この独裁の第一の役割は、国内の反動階級、反動派と、社会主義革命に反抗する搾取者を抑圧し、社会主義建設事業の破壊者を抑圧することである。第二の役割は、国外の敵によ

る転覆活動と可能な侵略を防ぐことである。人民民主主義独裁はプロレタリアート独裁であるが、中国の権力形態はまたそれ自身の特徴をそなえている。中華人民共和国の成立で、中国の民族ブルジョアとその党派の多くの代表的人物は、プロレタリアート独裁の国家机关に参加するとともに、社会主義事業のなかでひきつづき労働者階級および共産党との政治上の同盟をたもっている。この点では、ソ連の十月社会主義革命後の状況とはちがっている。そのおもな原因は、中国の民族ブルジョアが民主主義革命の段階と社会主義革命の段階とを問わず、二面性をそなえていることにある。毛沢東同志はつぎのように指摘している。「ブルジョア民主主義革命の時期には、民族ブルジョアは革命性の面をもつとともに、妥協性の面をもっている。社会主義革命の時期には、民族ブルジョアは労働者階級を搾取して利潤を獲得する面をもつとともに、憲法をまもり、社会主義的改造をうけいれたいという面をもっている」⑦と。そうである以上、労働者階級の指導的地位を確保するという前提のもとで、ブルジョアに政治的権利をのこしておくことは、かれらから政治的権利を剝奪するよりも、プロレタリアートと社会主義の革命事業にとつていっそう有利である。レーニンはかつてこういった。「搾取者から選挙権をとりあげる問題は、純ロシア的な問題であつて、プロレタリアート独裁一般の問題ではない」⑧と。中国の具体的条件のもとでは、社会主義革命の段階で、民族ブルジョアが社会